

シンポジウム

# 総合知創出に向けた 人文・社会科学のデジタル研究基盤 構築の現在

2022年1月22日（土曜日）

オンライン開催

参加費 無料

参加申し込みは[こちら](#)⇒



## 開催趣旨

第6期科学技術・イノベーション基本計画において人文・社会科学に期待される総合知の実現には、研究データの構築と利活用が一つの鍵となっており、研究データインフラの構築も徐々に進みつつある。

しかしながら、日本におけるこれまでの人文・社会科学における研究データの構築は、ごく一部の例外を除き、決して十分に実施できてきたとは言えない状況である。この背景には日本ならではの独自の事情や技術的制約など、様々な事情があるが、そうした状況が徐々に改善されてきたこともあり、ようやく人文・社会科学における研究データの本来的な課題に向き合う環境が整いつつある。

本シンポジウムでは、こうした状況を踏まえ、現状の課題を共有するとともに、今後の展開やその応用可能性について検討する。

## プログラム

- 13:30 開会挨拶** 永崎研宣（日本学術会議連携会員、一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）
- 13:40 第一部 人文・社会科学における研究データの構築のための国際標準と課題**
- ・学術研究のための多言語・多文字への対応と多漢字・変体仮名
    - 高田智和（国立国語研究所准教授）
  - ・人文学向け国際標準に基づく東アジア・日本のテキスト構造化
    - 永崎研宣（日本学術会議連携会員、一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）
  - ・画像公開方式IIIFと歴史GISによるデータ統合と総合知
    - 北本朝展（ROIS-DS人文学オープンデータ共同利用センター センター長・国立情報学研究所教授）
- 15:20 第二部 様々なコンテキストによるデータの構築から総合知へ**
- ・データ駆動型研究方法論の開拓を視野に入れた『人事興信録』研究
    - 増田知子（名古屋大学大学院法学研究科教授）、佐野智也（名古屋大学大学院法学研究科特任講師）
  - ・クラウドソーシングによるデータ構築から古地震研究へ
    - 加納靖之（東京大学地震研究所・地震火山史料連携研究機構准教授）
  - ・国立国会図書館のデジタル化事業とそこから産み出されるデータの可能性
    - 大場利康（国立国会図書館電子情報部長）
- 17:00 第三部 コメント：総合知に向けた人文社会科学データの観点から**
- 矢野桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）
  - 橋本隆子（日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長）
  - 西田真也（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院情報学研究所教授）
- 18:00 総合ディスカッション**
- 18:30 閉会**

主催：日本学術会議 心理学・教育学委員会、言語・文学委員会、哲学委員会、社会学委員会、史学委員会、地域研究委員会、情報学委員会合同「デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会」

後援：アート・ドキュメンテーション学会、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、情報知識学会、デジタルアーカイブ学会、日本デジタル・ヒューマニティーズ学会、日本図書館情報学会、三田図書館・情報学会

連絡先：「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」シンポジウム事務局  
scjdhs(a)dhi.jp ※(a)を@にしてお送りください

